

令和8年8月10日
(公社) 日本バス協会

「AI 搭載型乗合バス車内事故防止システム」の実証実験が始まります

日本バス協会では、本年3月、「バス事業における総合安全プラン 2030」を策定し、様々な安全対策を実施してまいります。しかしながら、乗合バスの車内事故の発生件数は引き続き横ばい状態であり、国土交通省調べによると、令和7年乗合バス事故の34.8%を占めており早急な対策が必要です。

こうした状況を受け、当協会では、今年度、バス事業者、機器開発メーカーと連携し、下記のスケジュールに基づき、「AI 搭載型乗合バス車内事故防止システム」の効果を検証するための実証実験を行います。

■ 実証実験の概要

乗合バスの車内（複数箇所）にカメラを設置し、リアルタイム映像とAIを活用して乗客の状態等を即座に検知し、運転士への気づきや警告、発車の的確な判断、乗客への安全確保の促し等により、事故防止への効果を検証します。また、撮影した映像データは、ヒヤリハットの検証、画像認識技術の向上等、当該システムの運用改善に活かしてまいります。

■ 参加バス事業者（12社）

京王電鉄バス(株)、神奈川中央交通(株)、相鉄バス(株)、名鉄バス(株)、京阪バス(株)、神姫バス(株)、
関東鉄道(株)、ジェイアールバス関東(株)、東京都交通局、しずてつジャストライン(株)、
川崎鶴見臨港バス(株)、西東京バス(株)

■ 参加機器メーカー（2社）

日野自動車(株)（本社：東京都）、(株)東海理化（本社：愛知県）

■ 実証実験スケジュール

2026年9月～12月

※なお、実証実験の開始にあたっては、バス事業者及び機器メーカーにより、利用者へ事前にお知らせするとともに、取得データは、個人情報保護法に則り、適切に管理いたします。

本件について、ご不明な点等がありましたら、下記担当までご連絡ください。

(公社) 日本バス協会 労務・安全部（担当：泉、田知花、池田）
電話：03-3216-4015（直通）

車内転倒事故防止ソリューション



路線バスの発進時、車内転倒リスクをお知らせ。ドライバーの負担軽減・事故減少に貢献

車内事故防止のための安全確認支援システム

POINT 01

AI で車内の乗客を検知

POINT 02

運転席モニターにより
オールインワンでチェックが可能



POINT 03

すべての路線バス車両に搭載可能

AI 開発ベンダー：株式会社サイバーコア

※不安定：車内通路に立っている状態で、手すり、吊革につかまっていない場合

東海理化「バス乗客安全システム」 システム構成

車内カメラとAIで乗客の危険行動を検知し、運転士に代わって乗客へ着席案内や注意喚起する事で、転倒事故防止と運転士負担軽減を支援。

